



隈取り

くまどり



日本画 制作工程

写生 (デッサン)

小下図

大下図

転写

本画

骨描き

● 隈取り

彩色

下地作り

仕上げ

完成

概要

隈取り（くまどり）は、ぼかしや濃淡を入れる日本画の表現技法です。暈（うん・ぼかし）ともいいます。立体感や形態の強調、装飾的効果があります。

先に塗った画面上の絵具や墨が乾かないうちに、水を含ませた筆や刷毛でぼかします。隈取り専用の筆「隈取筆」は、穂が太く、丸みを帯びた形をした筆で、水をたっぷりを含み、スジが入ることなく美しくぼかすことができます。他にも先が利かなくなった彩色筆や平筆など、使いやすいと思うものを用いると良いでしょう。絵具用の筆と隈取り用の筆2本を片手に持ちながら描くことを「返し筆」といい、絵具塗りと隈取りを交互に行います。隈取りを入れる場所や方法により種類があります。陰影を表す「かけ隈」、下地よりも明るい色でぼかしを入れる「照隈（てりくま）」、描かれた対象の外側をぼかし対象を白く浮き立たせる「外隈（そとぐま）」などがあります。日本画の制作手順では、骨描きが終わった次に隈取りがあります。描く対象物の陰影、量感や質感、色調の違いを墨の濃淡で表します。はじめは彩色に影響がない程度の薄い墨で隈取りしていき、対象物の色調の差をつけるなど、必要に応じて濃い墨を用います。ただし、あくまでも骨描きの線描が消えない程度にします。白黒で表された全体像は、その後に彩色での手がかりとなります。また、彩色でのぼかしも隈取りといえます。